

2026年度長野県卓球選手権大会 競技上の注意

審判長: 加納 圭

本大会は現行の日本卓球ルール及び本大会要項に準じて行います。ただし、タイムアウト制は適用しません。本大会の使用球は、JTTA 公認のニッタク・3スタープレミアムクリーンとします。

1 競技者はスポーツマンシップにのっとり、ルールを遵守し、立派なマナーのもとに、正々堂々と競技を行わなければなりません。

2 ラケット

- ① ラケット本体は J. T. T. A. A の刻印と商標がついているものを使用してください。
- ② ラバーは JTTA または ITTF 認定マークのついているものを使い、ラケット打球面の全面を覆い、はみ出したり小さかったりしてはいけません。
- ③ 認定マークが付いているものでも、競技に著しく影響のあるものは使用できません。特にラバーでは中央付近に亀裂やツブの破損があるものは使用できません。問題があると思われる場合は、審判長に申し出て判断を仰いでください。

3 サービス

＜日本卓球ルール＞

- ① サービスはフリーハンドの手のひらを開き、自由に転がる状態でボールをのせ静止させ、ボールに回転をかけることなく、ボールが手のひらから離れたあと打球される前になにもものにも触れず落下するように16cm以上、ほぼ垂直に投げ上げ、落ちてくる途中で打球しなければならない。
- ② サービス動作を始めてから打球するまでの間、ボールはプレイングサーフェスより高い位置で、エンドラインより後ろになければならない。また、その間ボールをレシーバーから隠してはならない。
- ③ ボールが手のひらから離れたら、すぐにフリーアームとフリーハンドをボールと両サポートとの間の空間の外に出さなければならない。
- ④ 競技者の行うサービスが基本ルールの要件を満たしているかどうかを、主審または副審が確信できるようにサービスを行うことは、競技者の責任である。どちらの審判員も、「サービスが正規のサービスであるか否か」と「ネットコードサービス（通称：ネットイン）」を判定することができる。
- ⑤ 主審または副審は、競技者のサービスの正当性について確信がもてない場合、それがマッチにおいて初めてのサービスであれば、競技を中断してサーバーにその旨注意することができる。その後、その競技者またはダブルスのパートナーが正規のサービスかどうか明らかでないサービスを行った場合、そのサービスは不正なサービスと判定され、レシーバーに1ポイント入る。

※ただし⑤については、本大会特別ルールとして、「正規かどうか明らかでないサービス1本目はレットとして注意を行い、2本目以降については競技を中断して審判長の判断を仰ぐ」とします。

4 服装

- ・競技用服装は JTTA 公認半袖シャツ、ショーツまたはスカートおよび体育館用シューズです。
※卓球では長袖アンダーウェア（上下）の着用は認められていません。サポーターやスパッツは可ですが、長さや色、商標について細かなルールがありますのでご承知ください。
※審判長の許可で定められた服装以外の着用が認められますが、それらは身体的な理由に起因するものです。
- ・試合前の練習のときから、指定のゼッケンを付けた競技服装で出場してください。

5 アドバイス

- ・要項に掲載したとおり、本大会は出場選手が多いためアドバイザー（ベンチコーチ）は全試合において認めません。また、ゲーム中に観客席から指示を受けることも禁止です。

6 抗議

- ・抗議権は選手のみ。
- ・ルール解釈上のこと以外は判定に従い、場合によっては審判長に連絡してください。

7 応援について

- ・インプレー中の応援は禁止。インプレーでない場合の応援の内容もアドバイスは禁止。

8 休憩、中断について

- ・休憩は、ゲーム間の1分間以内。
- ・タオル使用は、6ポイントごとと、5ゲーム目に一方の選手の得点が先に5点に達したときのみ。
- ・選手の事故などによる中断は最大10分間を目安とし、審判は速やかに時間を測定し、審判長に申し出てください。

9 審判について

- ① カウント器を持っている審判は、6ポイントごとにカウント器を頭上にかかげ、45度ほど回転させ、観客に見えるようにしてください。
- ② 審判は「各ラリーがポイントとなるかレットとなるかの判定」について責任をもって行ってください。具体的には『正規のサービスであるか否かの判定（3参照）』のほか、『エッジとサイドの判定』、『競技条件に支障が出て、ラリーの結果に影響が及ぶと思われる場合のレットの判定』などです。
- ③ 違反のアドバイスやバッドマナーがあった場合、主審は競技を中断し、審判長に報告をしてください。
(本大会特別ルール)

<日本卓球ルール>

- ・違反のアドバイスをした者・・・主審がイエローカードを掲げて警告、さらに繰り返されればレッドカードを掲げて競技領域から離れる。
- ・バッドマナー・・・重大な違反→主審が競技を中断して審判長に報告。
その他の違反→1回目はイエローカードを掲げて警告、2回目はイエローカードとレッドカードを掲げて相手にポイントが入る。

10 その他

- ・体育館内でのラバーの接着行為は禁止します。
- ・競技中のカメラによるフラッシュ撮影を禁止します。
- ・ビデオカメラやタブレットを用いての撮影は、フロア及びギャラリーから可能です。
ただし、フロアから撮影する場合は対戦相手の許可を得てから行い、破損等については自己責任でお願いします。
- ・競技領域及びベンチで通信機器を使って連絡を取ることは禁じます。
- ・上記以外で不明な点があったら審判長に申し出てください。
- ・個人情報保護の面から、インターネットに動画や画像を絶対にあげないようにお願いします。
- ・シューズのすべり止めとして雑巾を使うことは認められていません。必要な場合はバスケットボールなどで使用されている滑り止めシートを使ってください。置く場所はネット下（審判の付近）とします。
- ・本大会については、**試合前の練習は3本**とします。

11 棄権について

- ・朝のうちに、本部へ申し出てください。